

The factor structures of Japanese kanji abilities, and age and cohort effects on them

漢字能力の因子構造：年齢とコホートが及ぼす影響

Otsuka, S. & Murai, T.

大塚貞男、村井俊哉

18th International Congress of European Society for Child and Adolescent Psychiatry ESCAP 2019,
30 June – 2 July, 2019, Hofburg, Vienna, Austria

目的

本研究の目的は、日本人の一般人口における漢字能力の認知構造を明らかにし、それに及ぼす年齢とコホートの影響を検討することである。

方法

日本漢字能力検定（漢検）のデータベースを解析した。漢検は、日本における最もポピュラーな漢字能力テストであり、非常に多くの日本人が受検している。本研究では、全データベースの内から、2006年に2級を受検した54,965人（9～106歳）のデータと、2016年に2級を受検した28,783人（8～91歳）のデータを主たる解析対象とした。漢検2級の検定問題は、読み書き能力の様々な側面を評価する10の下位尺度（設問）から構成される。本研究は、京都大学の倫理委員会で承認され、実施された。

結果

探索的因子分析の結果、書字の正確さと意味理解という2因子からなる認知構造が特定された。2006年データでは、漢字書字と意味理解能力との相関が中高生 ($r = 0.659$) と比べて大学生 ($r = 0.684$) の方が高く、大学生より成人早期 ($r = 0.732$) の方が高かった。2016年データでも同様に、中高生 ($r = 0.665$) より大学生 ($r = 0.692$) の方が高かったが、大学生と成人早期 ($r = 0.710$) との間に有意差は認められなかった。加えて、2006年データでは、成人早期と中年期の漢字書字能力に差が無かった一方で、2016年データでは、成人早期の書字能力は中年期と比べて低かった ($p < .01$)。

考察

本研究結果は、最近の成人における漢字書字能力の低下と、漢字書字と意味理解との統合的習得の停滞を意味していると考えられ、その背景には近年における情報機器の急速な普及があると推測される。